

# 信通マオキ

20230420 VOL.4 YURIE\_MIE



savoir (サボア\_ 知っている) サ-ありのまま ホ-自在 ア-自身を表す : ISuN

# 幸福マ通信

20230420 VOL.4 YURIE\_MIE

私たちは  
あなたに光を観ようとし、真実を体験し、  
それを現そうとします

今月のイラストについて:水たまりに石を落としたときの印象をあらわしました (イスン)



愛って、つづれ織(どの工程にも全体が在る)ですよね。

# 光を生きるあなたへ

光ンソン

## 第4回 「色にも色々」

ヲキンソン ありがとうございます

ンソンの知り合いに、ご実家が京都の方がいらっしゃるのですが、もみじ狩りよりも、青もみじ狩りの方が好きだとおっしゃっておいました。

初めてそれを聞いた時、おしゃれだな、と思ったのを記憶しています。

確かに新緑の瑞々しい青はとても美しく、ンソンも大好きです。

桜が咲く頃のほんわりとした春も好きですが、目が覚めるような緑の葉が太陽でキラキラ輝くのも、生命力に溢れている感じがしていいのですよ。

きっと、グラハたちも、そんなことを思い描きながら一つ一つの植物を創造したのだと思います。

色というのは人の心を豊かにしてくれますね。

人間は色々な色を見分けます。

春には春の色合いがあり、夏には夏の色合いがあります。

季節ごとに服装の色を変えたり、女性なら化粧の色のトーンを変えるなど、オシャレを楽しんだりします。

皆さんは「白色」には何種類ぐらいあるかご存知でしょうか？

「え？ 白色は白色で1つでしょ？」なんて思いましたか？

厳密に言えば、白っぽい色、ということになると思いますが、およそ200種類の白色があって、実際にはもっとあるとも言われています。

ちなみに、正常な色覚を持つ若い方の場合、人は750万色を見分けることができるそうです。

数字だけ聞くとすごいと思いますが、ふと身の回りを眺めてみれば、同じような色でもその違いが分かりますから、確かにそうかもしれませんね。

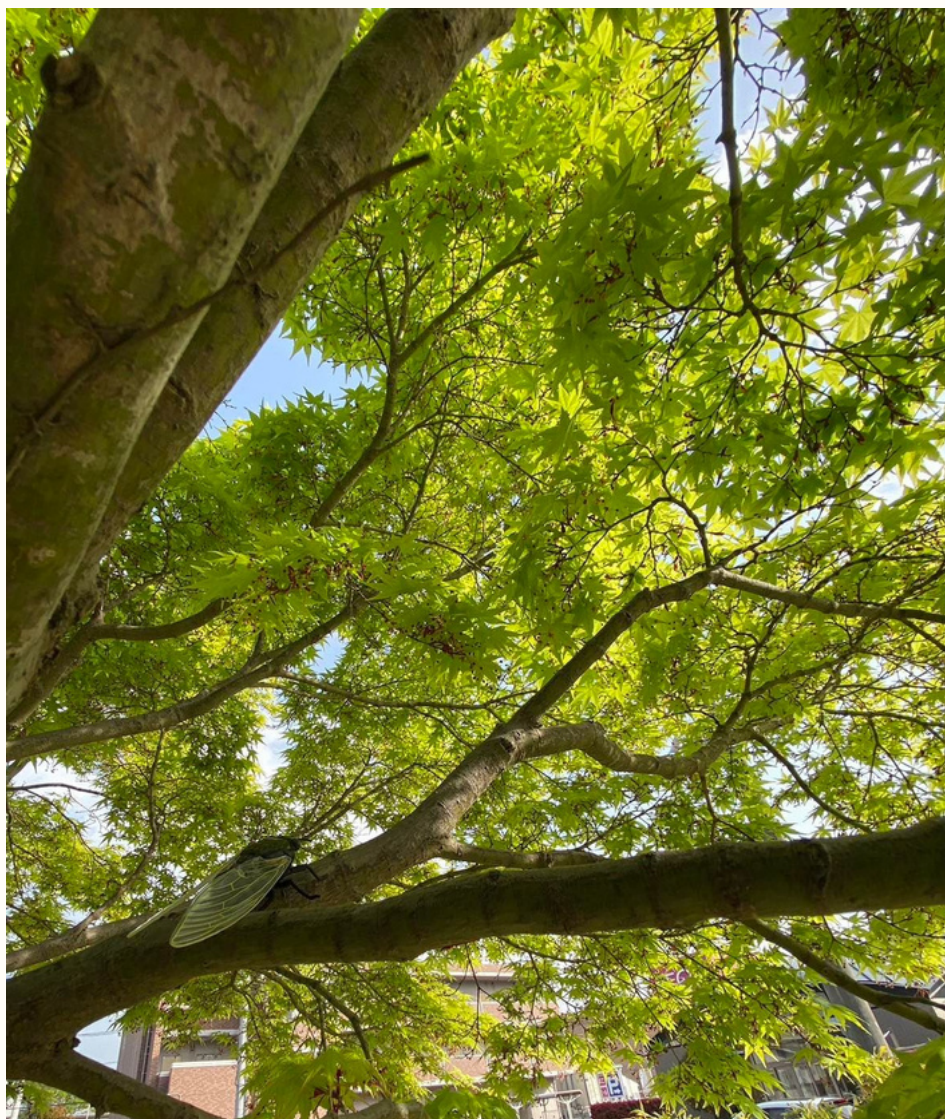
私たちは、それだけたくさんの色がある世界にいます。

それらすべての色は、私たちの創造である、とも言えます。

新緑の季節、色々な青や緑がありますので、探索に出かけるのも、創造の欣びなのではないでしょうか？

お散歩していると気の早いセミがいるかもしれませんよ。

ヲキンソン ありがとうございます



青もみじ狩りとセミ



愛って、まるで花の香りのように、気が付いたら心の中いっぱい広がっていて、からだの隅々にまでしみ込んでいて、あー、自分は愛を生きているんだな、と思うですよ。

## 第4回 イタウ(長尾 譲治)さんについて

ヲキンキツマ ありがとうございます。

今回は、イタウ(長尾 譲治)さんについてお伝えいたします。



### 【農法担当】

4月1日にご入社されたばかりです。何事にも全力で取り組まれていらっしゃいます。

Q1. イタウさんにとってK-PVTとは

A1. 毎朝『自身が何者なのか』気づくきっかけを得ることのできるツールであると感じております。自身の内側に光を感じ、それが響いていくさまを、モヤモヤとしながらも感じているのが現状ではありませんが、その経験を知識で確認し、開かれていく体験を重ねていきたいと思っております。

Q2. イタウさんにとってKIRとは

A2. 4月1日からKIRのお仲間に入れていただきありがとうございます。感謝しております。KIRの皆さんは、互いに互いの光を観ようとし、一切の躊躇がなく自身の光を現しているさまを初日から感じさせていただきました。それは一見、摩擦のように見える場面もあるのですが、それは各々のかたの真実の現れであり、まさに多様性を感じました。その現れは、『言葉の抑揚』『てにをは』『顔の表情』など五感を通じて感じる以上の、響きとなってイタウの全身に伝わってくるものでした。自身が、まだまだヨチヨチの赤ちゃんのような心境で、とてもあたたかい気持ちに包まれる『場』と感じ、さらにKIRは『育成と献身』の現れと感じます。ありがとうございます。

ご入社されたばかりのイタウさんから、ご質問があったときに、どこか自分も気になっていたのだけれど、人に説明ができるまで理解することを後回しにしていた事項が多く、この環境に慣れてしまっており、ギリギリを生きてないことを気づかせていただいております。

ヲキンキツマ ありがとうございます。



愛って、呼吸 ですよ。

# 植物から自然知性を学ぶ

ツケオ

## 第4回 粒子化し光に還元し再創造して、達成を大きくし進化成長

ヲキンツケオありがとうございます。

春になり暖かくなり、今治畑も春の景色に変わっています。  
冬の静寂から夏への躍動に向かっていると感じます。

いま元気よく鮮やかに咲いている小松菜の菜の花は、以前は、あぶら虫に食べられてボロボロ状態の小松菜の葉でした。一方で、冬に開催するフェスに合わせて、ボロボロの小松菜は放置したままで、別の畝で新たに小松菜の種を巻きました。

こちらの小松菜は、アブラムシに食われることがなく、とても葉が元気よく順調に育っていると感じました。

しかし、途中から小松菜の葉が、大きく成長することがなくなりました。はじめは順調に成長していると思っているものが、途中から成長がしなくなったり、虫食われてボロボロになった葉が元気で鮮やかな菜の花を咲かせたり、植物の様々な成長に多様性を感じます。

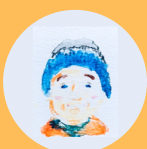
植物の様々な成長から、部分で判断するのではなく、全体の視点で観ることが大切だと教えられます。でも、それ以上に大切なことは、光を観ようとする、達成をみることです。

そして闇に行ったとしても、粒子化して光に還元し再創造することで、いつでも光のラインに戻ることができます。さらには、粒子化し光に還元し再創造することで、今までの既存のラインを超える大きな達成のラインに進み、達成を大きくすることができることを、鮮やかに咲く小松菜の菜の花から知ることが出来ます。

なにか障害があることは、生命が粒子化して光に還元し再創造することを行うことに迫られるので、障害は進化成長することへの大きなチャンスです。

生命には進化成長するためのメカニズムが組み込まれていることを感じる事ができます。

ヲキンツケオありがとうございます。



愛って、ピンクですよ。

## 第4回 大三島の集落

ヲキンワナム

ありがとうございます。

大三島は桜も散って新緑の様々な緑が映え、色とりどりの花が咲いています。

木々、植物から躍動を感じています。

太陽の光もますます強くなってきている感じがします。

大三島はしまなみ街道の島々の中で一番大きな島です。

島内には数多くの集落が存在し、それぞれの集落は山を挟んで離れています。そのことによって各集落によって気質が違うそうです。

例えば、平地が少ない集落では、真面目な方が多いそうです。山の斜面一面に柑橘畑が広がっていて、その集落の人はコツコツと山を開墾し、柑橘畑を広げていったそうです。そして綺麗に管理された畑を見ると、その集落の人の真面目さなどが伝わってきます。

島をぐるぐると回って見ると、各集落の空気感がわかるような気がします。

そして、各集落ごとにここ最近コロナの影響で開催されていなかった、いろいろな祭りが開催されるそうです。

人々は祭りを通してつながることを大切にされているのだと思います。

ちなみに、近いうちに地域の清掃に参加してきます。少しずつですが地域の方々とのつながりを作っていきたいと思います。

ヲキンワナム

ありがとうございます。



愛って、在る ですよ。

## 第4回 苦しみ

ヲキンヤリノ

ありがとうございます。

ヤリノはこの連載をはじめKIRでのお仕事を通して、様々な講座の純粋な知識に触れさせていただいています。それによって自身が知識に開かれ、光を現せるようになることは欣びです。

でも、「復習をする時間を創れない!」「原稿、これでいいのか?」という苦しみもあります。「でも」と書きましたが、欣びというのは苦しみの先にあるものですからむしろ当たり前です。

ンソン先生は私たちが光の6次元に埋もれ、自身の中にある反応という闇に気付けずにただぼんやりと時間を消費してしまうことに注意喚起をしてくださっています。今私たちが大切にすべきことは、進化の苦しみに向かうことです。すると徐々にその苦しみというゴツゴツした狭っ苦しい壁は自身が創り出したものだとわかってきて、そのうち手放せるはずですよ。

今だって、この文章を書くことは苦しみです。反応が出ます。光を現そうとするからこそこの反応に気づけます。手放すことができません。有難いです。

苦しみ→気づき→有難い

そうか、これが苦しみの先に欣びがある、ということなのだと思います。

ヲキンヤリノ

ありがとうございます



愛って、シンプルですよ。



## 第4回 光の体験と響き

ヲキンワトホ  
ありがとうございます。

コトハを実習することで人は光を体験し、響きを知ることができます。

普遍意識から創造される最初の被造物である自然知性は光として体験され、それは基本的にひとつの体験です。

響きは、普遍的である光が個別化し、さらに具象化することで世界が創造される体験であり、そのとき世界に多様性が生まれます。

ヲキンワトホ  
ありがとうございます。



お誕生日にチケエさんが摘んできてくれたお花で王冠を作ってくれました。  
ツケオさんがお花を買ってきてくれました。キオマ食堂でみんながお祝いしてくれました。



愛って、光ですよ。

## 第4回 忘れていたこと

ヲキンナエン

ありがとうございます

前回3通目のキオマ通信：ンソン先生のご投稿を拝見して感じたことをこちらに。

本当は、すべての人は自分の願望をすべて叶えることができます。

ただ、そのことを忘れていただけです。

↑↑↑

ンソン先生のこの一文にハッとしました。

なぜなら。思い出したことがあります。

ナエンは昔々、思い描いていたことがありました。

じぶんが心地いいと思うもので空間を満たすギャラリーみたいなカフェをやってみたい。

長い間この思いがあったことすら忘れていました。

そんなこと出来っこないよね、と自分の願望にふたをしていたのです。

それから長い長い年月が経ち、ある時、フト気づいたのです。

キオマ食堂ってまさにそれじゃないかー！！！！

そのことに随分あとから気づくのです。じぶんが願ったことすら忘れていて、無かったことになりかけていたことを。(その願望にまさか自身がごはんを作るという想定はありませんでしたが)

できたらいいなー、という風に出来ない思い込みの言い訳の逃げ道をつくって、ほんとうにすっかり忘れ切っていた夢を。

自身でさえ思い出せなかった誰にも言えなかったことが、ンソン先生がセッティングしてくださったおかげで叶っていることを、あとから知るので。キオマ食堂でごはんを作りながらも、しばらくはそのことに気づきませんでした。

そしてそれを思い出した時、鳥肌と涙がとまりませんでした。

感謝と感動とご縁とその采配に、ただただ涙でした。

意図さえ明確であれば、思い出すヒントもチャンスもこの環境にあります。

創造の源であることも知っているはず。

では、今回はこれにて。ごきげんよう。To be continue～次回満月へ続く

ヲキンナエン

ありがとうございます



愛って、感じます♡ よね

# CHIKE CAFEのこと

チケエ

## 第4回 その4

ヲキンチケエ

ありがとうございます。

先日、カウンターの中でいつものようにたばこを吹かしながら（うそです）窓の外を眺めていると、ソソン先生がどこかへ向かって歩いていかれる後ろ姿が見え、しばらくして、「ヲキンチケエありがとうございます」とおっしゃりながら（ひとのミコトオンじゃないのよ）戻ってこられた先生のその手のひらには、セミの抜け殻がひとつ、そっと乗せられてありました。

いつだったか、人は自然の支援を受けるようになると、願望即成就、「りんごが欲しいんだっちゃ」と思うと同時に、もうその手のひらに乗っている、的なた話を耳にしたことがあり、自身の場合は、わしもそんななりたいわぁ＝そんなふうになりたいと思いつける現実made＝どうせ自分はそんなふうになれっこないmind、をぐるぐるしてましたっけ。

話は戻り、先生が「セミが欲しいんだっちゃ」と思っていたらどうかはわかりませんが、そのときの静かですぐな、揺るぎない何かを感じる足取りは、そこにセミがいることを最初からご存知だったような、自然にそれを迎へに行かれたように自身には見え、IT'S創造？知らんけど。なんかすげーな、と思う昼下がりでした。

そんなある日。ルートラーナの不良仲間（うそです）と某市場へ行った際、苺売り場の平台を前に、「西条にいた頃は苺がもっと安くていっぱい入ったやつをよく見たけど、今治では見たことないんすよねー」と、それがどのような苺だったかをお話しながら、週末のカフェの仕込み、苺フェスのことを考えつつ、きれいに並んだ苺のパックを横目に順番に進んでいくと、突然苺が1.5kgほど入った大きな箱が、ひとつだけ目の前に現れたのです。千円。しかもよくあるジャム用とかではなく、つやつやピカピカの苺たちが、待ってましたとばかりに。うそやん、と驚きつつ、受け取り下手なのか、出来すぎな現実を前に、ちょっと考えよう…と一旦売り場を離れたのですが、その苺を煮て、菓子を作っている自身の様子。広がり。それを召し上がってくださる方々のことがぶわーと浮かんでしょうがない。タイミングやん。いま買わな。

よし、と決心して売り場に戻り、その箱に目が釘付けのおっさんが離れた一瞬を狙い撃ちして無事にget。その週末は、苺による階層構造チケ菓子が具現化されましたさ。

Youの願望が叶わないのは、それがちっさすぎるからだ。効力をでかくしたいなら願望も出来るだけでかくするべし、と某講座を通して教わりました。

チケカフェの願望は、火星のグラハも大注目、全宇宙で「あそこ行ってみたいわぁ」「めっちゃいいからあんたも行って」な口コミと欣びが広がる空間の創造、といったところでしょうか。

ヲキンチケエ

ありがとうございます。



愛って、すべてを開く ですよ。

# コトハを学び、ミコトを生きる

ワラン

## 第2回 コトハを学び、ミコトを生きる

ヲキンワラン  
ありがとうございます

皆さん、こんにちは。ワランです。  
今回は「コトハを学び、ミコトを生きる」の第2回です。  
ミコトとは、すべての人の内側にある、純粋な思いを現そうとする活動のことです。

数年前、ワランがSIP第2期生だった頃、名古屋で法律事務所を建築するための土地を探していました。その法律事務所は、人々に静寂と安らぎをもたらす、光に満ちた空間であることを目指していました。探し始めて少し経った頃、そのような事務所を建てるのにこれ以上ない土地が出てきました。しかし、それは、自宅からも裁判所からも離れており、常識的に考えると仕事の利便性には適っていませんでした。価格も当初の予算を遥かにオーバーしていましたが、それは自分が思い描いていたものに完全に合致しており、自分の直感を信じてこの土地を購入することに決めました。ところが、懇意にしていた金融機関から融資を断られてしまいました。借りる方も相当の勇気が必要でしたので、融資を断られてむしろスッキリしましたが、まだ終わった感じがせず、次はこれまで全く取引のなかった金融機関に融資の申込をしました。すると、すんなり融資が決まり、新事務所の建築計画が再び動き始めました。

その時、ンソン先生からいただいたコメントは「それは、初めから達成されていたのです。」というものでした。その言葉の意味を理解するまでに少し時間がかかりましたが、純粋な思いは初めから達成されているのです。ミコトはそれを具体的な形にしていく活動です。

ヲキンワラン  
ありがとうございます



愛って、∞ ですよ。

# お便りコーナー

ネリノさん コユノさん

## ネリノさんより♡

キオマ通信、いつもありがとうございます。

多様性あふれる方々の、それぞれの切り口や角度から知識を学ぶことができ、いろいろな気づきをもたらしています。

ときに反応が出たりもしますが、そんなとき、光を観ようとする、自分のせまい枠がはずれていって視野が広がり、楽になります。これは自分一人ではできないことだなあ、ありがたいなあと思っています。

今回のキオマ通信では、お題の「それが何か？」がすごくおもしろかったです！

みなさんの真摯な投稿の合間に、クスッと笑えたり、ほっこりしたり、おどろいたりして、楽しく読み進むことができました。

ちなみに、私の、それが何か？は・・・

チケカフェのチケット、当たったらうれしいなあ♡と思って、お便りしましたが、それが何か？

約2週間ペースでの発行は大変かと思いますが、がんばってくださいね♡

## コユノさんより♡

ヲキンコユノ ありがとうございます。

表紙が子供さんを見ながら、サッと書かれたことを知り、コユノは光が具象化し響きになり、それを具現化する方向性が全ての人によって違うのだな。

個別性って方向性なんだ。個別の光は理知になるんだ。と、思いました。

チケカフェでは、コユノ一家の光をみて、チケエさんが作ってくれたハーブティーは飲んだことがないくらい美味しかった。

コユノには芸術はわかりませんが、毎回表紙が芸術だ！と感じます。今回はイスンさんが子供を見ると、あんな風になるのか！と

びっくりしました。本当に響きを観て現すのはその人次第なんだな。と感じました。

コユノはワトホさんの文がとても好きです。

なるほどー。と、毎回気づきをもらいます。

ヤリノさんの絵は、その人を現していてすごいです。具現化の達人です。

次号も楽しみにしています。ありがとうございます。

ヲキンコユノ ありがとうございます。

ネリノさん、コユノさん、素敵なお便りありがとうございます。読みかえすたびに新鮮な感じがして、不思議です。プレゼントの抽選の結果は、チケカフェチケットの発送（メールです）をもってかえさせていただきますのでお楽しみになさってくださいね。

次回のプレゼント企画はイスンさんが描いた表紙イラスト（原画）を予定しております。

プレゼントが当たったらうれしいなあ♡と思われた方は、迷わずどうぞ。皆さまからの愛のお便り、お待ちしております。

## 第4回 キオマの庭から

ヲキンキリヲ ありがとうございます

皆さまこんにちは。春も終盤に入りましたが、いかがお過ごしですか？

キリヲは、春の初めにお気に入りの河原を見つけました。

桜はもちろん、水仙、ムスカリ、野ばら、菜の花、雪柳など、春の花々があちこちに咲く河原です。甘い香りがするので振り返ると、そこにはフリージアが咲いていて、「まるで話しかけてくれたみたい」と、ひとり胸をはずませ、休日のたびに通っていました。

自生といえば、キオマ食堂の庭にもいくつかの山菜が自生しています。どうやらその山菜たちは、キリヲには聞こえないほど小さな声で、ソソク先生に話しかけているようです。

その日、先生がめずらしく食堂の庭のデッキに立ち寄られたのを窓の中から眺めていると、先生が手招きをしてくださり、外に出てみたところ、そこにはなんと筍が生えておりました。

そして「庭の山菜たちを、キオマ通信で皆さんにお披露目ください」というお言葉を頂戴したので、写真を掲載させていただきます（もしかすると、山菜たちからのリクエストでしょうか）。

何はともあれ、皆さまにキオマの庭の春をお届けできたら幸いです。

よもぎ  
(ソースや団子に)



さんしょう  
(筍に添えて)



うわさの筍  
(わかるかな)



ふき  
(煮ものになる予定)



タラの芽  
(天ぷらがおいしい)



探索という創造を  
欣ぶ雅な方々



それでは、次回は約2週間後のユリエのハ、満月の日にお目にかかれますよう。

最後までお読みくださり、ありがとうございます。

2023年4月20日、ユリエのメ、春の終わりの新月の日に。

ヲキンキリヲ ありがとうございます



愛って、愛ってという言葉以外では表現できない感じしますよね。



**KoToHa** *Integral Research*